

※本様式の入力にあたっては、Windows10かつExcel2013以降のバージョンを御使用くださるよう、お願いいたします。

専任教員数を入力すると研究業績数の上限が表示されます。小規模の組織や専任教員が「0人」になる場合などの理由がある場合には、機構までお問合せください。

第3期 研究業績説明書 イメージ

法人番号①	XX	法人名	〇〇大学	学部・研究科等番号②	X	学部・研究科等名	〇〇学部・〇〇研究科	専任教員数③	[人]	提出できる研究業績数の上限④	[件]
-------	----	-----	------	------------	---	----------	------------	--------	-----	----------------	-----

1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】⑤

本学部・研究科は、～～～～～という目的を有しており、～～～～～であり、～～～～～の特色がある。したがって、～～～～～という点が最も重要であると考えている。また、～～～～～であるため、～～～～～という点も考慮している。それらを踏まえ、～～～～～という判断基準で研究業績を選定している。

小区分番号を半角数字で入力すると、小区分名が表示されます。
正しい小区分名となっているか、必ず御確認ください。【例】01010(哲学および倫理学関連)

2. 選定した研究業績

業績 番号	小区分 番号 ⑥	小区分名 ⑦	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】 ⑧	学 術 的 意 義 ⑨	社 会 ・ 経 済 ・ 文 化 的 意 義 ⑨	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等) 【400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】 ⑩	重複して 選定した 研究業績 番号 ⑪	共同 利用等 ⑫	代表的な研究成果・成果物 【最大3つまで】 ⑬							
									a)	b)	c)	d)	e)	f)	g)	
									著者・発表者等	タイトル・表題等	発表雑誌・出版社 ・会合等	巻・号	頁	発行・発表年等	掲載論文のDOI (付与されている場合)	
1	XXXXX		〇〇〇〇の研究 本研究は、〇〇〇〇に関し、従来より課題となっていた～ ～について、～ ～という理論を用い、分析・解明したものである。この手法は、～ ～という点で画期的であり、これにより～ ～であることが明らかとなり、～ ～することによって～ ～できることを示すことができた。	SS		(1)は2019年度の日本〇〇学会の〇〇賞を受賞した論文である。この論文は、特に～ ～において、「～ ～」と言及されている。被引用回数に関しても、◇◇◇◇において、合計〇回引用されている。また、本業績に関連して、△ △国際会議では「～ ～」の演題で、× ×国際会議では「～ ～」の演題で招待講演を行い、その他国内の学会等を含めると、計〇回の招待講演を行った。本業績は、当該分野のみならず、関連する△△△△の研究にも大きく貢献し、国際学術誌『▽▽▽▽』において、「～ ～」と高く評価されている。			(1)	XXX, XXX, XXX	〇〇	〇〇	〇	pp.〇-〇	2019	〇〇.〇〇〇〇/〇〇〇〇〇〇
									(2)							
									(3)							
2	XXXXX		△△△△の研究 本研究は、△△△△について、従来まで考証されていなかった～ ～の視点から考察したものである。本研究では、特に、～ ～という点に着目し、定説とされていた～ ～について、～ ～であることを論証したものである。	S		(1)は、当該研究の中核をなす論文、(2)は、(1)で論証した～ ～を更に～ ～のアプローチからも明らかにした論文であり、両論文は2017年度の日本△△学会の△△賞の対象となったものである。(3)は、(1)(2)の内容を中心に、最近の研究動向をまとめた総説であり、□□学会の□□において、「～ ～」と言及されている。また、これらの論文等から構成される「△△△△の研究」について、国際的学術誌『◇◇◇◇』において、「～ ～」の書評を受けており、～ ～という点が評価されている。	X-X-X	〇	(1)	XXX	〇〇	〇〇	〇	pp.〇-〇	2017	〇〇.〇〇〇〇/〇〇〇〇〇〇
									(2)	XXX	△△	△△	△	pp.△-△	2017	△△.△△△△/△△△△△△
									(3)	XXX	□□	□□	□□	pp.□-□	2019	□□.□□□□/□□□□□□
3	XXXXX		◇◇◇◇の研究 本研究は、従来の◇◇◇◇に関し、新たに～ ～を応用し、～ ～という技術手法を開発したものである。これは、～ ～で注目されている～ ～プロジェクトの中心的な役割を担うものであり、当該技術に基づく▽ ▽▽▽▽システムにより、～ ～を可能とした。	SS		(1)は実用性において評価の高い論文に与えられる〇〇学会の〇〇賞を2017年度に受賞した。受賞理由は、「～ ～」と記されている。また、(1)で示された～ ～という技術手法は、××新聞(2018年〇月〇日)、△△新聞(同年〇月〇日)、◇◇新聞(同年11月24日)で書評に取り上げられ、「～ ～」等の高い評価を受けている。当該技術は2019年に実用化され、世界120か国において製品化、普及しており、全世界の人々の生活に新たな基軸をもたらした。また、〇〇社の報告(報告書『〇〇〇〇〇』2019年〇月)に依れば、当該技術に基づく▽▽▽▽システムの運用による全世界の経済効果は年間75億米ドルと報じられている。		〇	(1)	XXX	△△	△△	△	pp.△-△	2017	△△.△△△△/△△△△△△
									(2)							
									(3)							

業績 番号	小区分 番号 ⑥	小区分名 ⑦	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】 ⑧	学 術 的 意 義 ⑨	社 会 ・ 経 済 ・ 文 化 的 意 義 ⑨	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等) 【400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】 ⑩	重複して 選定した 研究業績 番号 ⑪	共同 利用 等 ⑫	代表的な研究成果・成果物 【最大3つまで】 ⑬						
									a)	b)	c)	d)	e)	f)	g)
									著者・発表者等	タイトル・表題等	発表雑誌・出版社 ・会合等	巻・号	頁	発行・発表年等	掲載論文のDOI (付与されている場合)
4	XXXXX		◎◎◎◎の研究 本研究は、～や～ ～に課題を抱える～などが、～ ～のために◎◎◎◎の役割が重要になって いる。～の開発など、～の実 現につながる。これにより～という研 究成果をあげた。		S	(1)については、～や～が評価され、～協会 が選ぶ2018年度○○○○賞を受賞し、このほか、～会による○○○○賞 及び○○○○賞も受賞した。これまで、△△△、◇◇◇などに出席するとともに、 ◎◎◎、□□□などのテレビや○○新聞、○○新聞、○○新聞など数多くのマス コミに取り上げられている。現在までに～、～、～ ～など数多くの企業に採用されている。			(1) XXX	○○	○○年度 ○○賞			2018	
									(2) XXX	△△	第△回△△展			2017	
5	XXXXX		□□□□の研究 本研究は、～について、～ ～の実現を目的とし、～ができる開発 のための基礎研究を行い、検証の上、□□□□ の実用化を目指している。		SS	【社会、経済、文化的意義】 本研究は、～というコンセプトを～に展開するもの であり、～を開発し、～に導入した結 果、～を実現できることを証明した。本研究に対しては、記載の特許3件 を含め、合計○件の特許が登録されている。 本研究に関連して、～や、～などの 国内外の招待講演(計△件)も行っており、国際会議「～」 から◇◇◇Awardが授与された。			(1) XXX	○○ (特許第○○号)	○○			2017.○.○	
									(2) XXX	○○ (特許第○○号)	○○			2017.○.○	
									(3) XXX	○○ (特許第○○号)	○○			2017.○.○	
6	XXXXX		○○○○の研究 本研究は、○○○○としての特性を、～ ～を通して明らかにした。～ ～という概念に沿って、～ ～と、～ ～との相関関係を明らかにし、～ ～を見出している。 第1部は、～という総論であ り、第2部は、個別の～の分析を 通して検証した各論である。	SS	S	【学術的意義】 『○○○○の○○○○』は、刊行後、～に対して贈られる「△△△ 賞」を、また、～に対して贈られる「△△△賞」を受賞した。前者におい ては、～という展望をもたらした点(◇◇◇氏選評)、後者におい ては、～で、かつ～という点(□□□氏選評)が評価され た。 【社会、経済、文化的意義】 『○○○○の○○○○』は、「△△△賞」受賞時の選評において「～を、 社会に対し、～としている。」という評価が与えられており、また、○○新 聞(2019年○月○日)、××新聞(同年○月○日)で書評に「△△△」が特集され るなど、社会的な反響があった。			(1) XXX	○○	○○出版		全○頁	2018	
									(2) XXX	第○章○○	○○書店		pp.○-○	2017	
									(3) XXX	第○章○○	○○書店		pp.○-○	2016	

